取扱説明書

この度はスズキ弓弾き大正琴「悠弓」をお買い上げいただき、
誠にありがとうございます。
本製品を安全に、そして末永くご使用いただくため、
この取扱説明書をよくお読みください。
お読みになった取扱説明書は、
なくさないように大切に保管してください。

目次

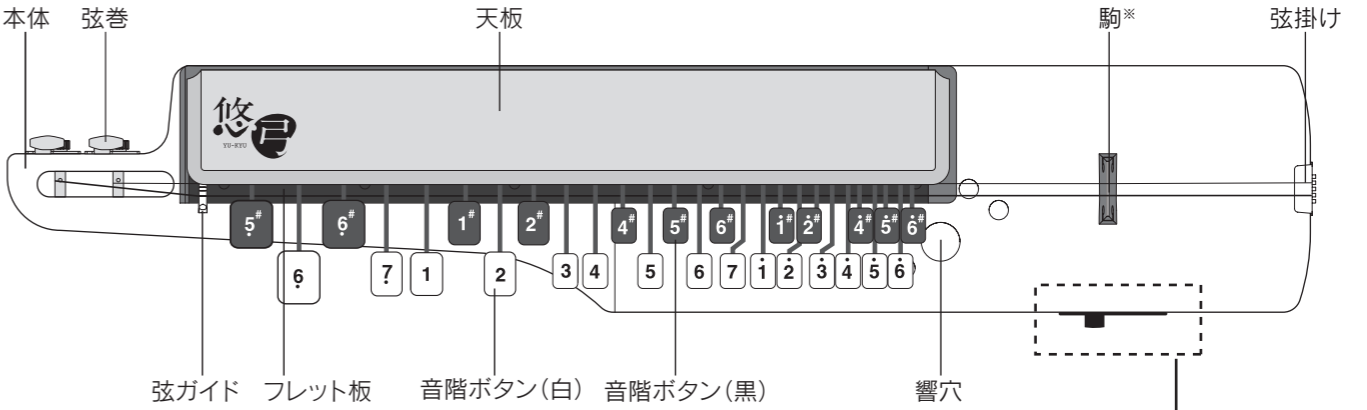
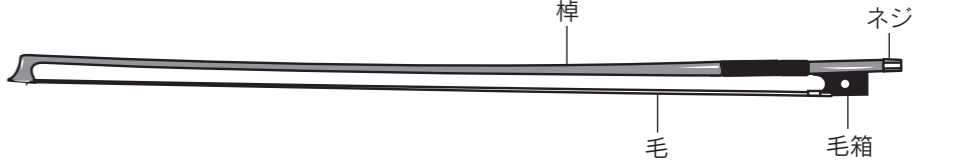
使用上のご注意

必ずお読みください。

水・湿気は大敵です 水分や湿気の多い場所では、絶対に使用・保管しないでください。故障の原因となります。	**熱くなる場所を避けてください** 自動車の中や暖房器具のすぐ近くなど、極端に熱くなるところでの使用・保管は避けてください。変形・故障の原因になることがあります。	**ホコリっぽい場所は避けてください** ホコリの多いところでの使用・保管は避けてください。故障の原因になることがあります。	**衝撃を与えないでください** 楽器をぶつけたり、落としたりしないでください。製品に傷を付けるだけでなく、故障の原因になります。
不安定な場所に置かないでください 楽器を不安定な場所に置かないでください。転倒・落下をして思わぬケガをする危険があります。	**調弦時は顔を遠ざけて** 弦の張り替えや調弦のときは楽器に顔を近づけすぎないようにしてください。万一弦が切れますと、顔や目を傷つける恐れがあり危険です。	**弦で手を傷つけないように** 調弦や張り替え・お手入れのとき、弦の先端で手や指などを傷つけないように気をつけてください。	**お手入れはやわらかい布で** お手入れはやわらかい布でカラ拭きしてください。アルコール・シンナー・ベンジン等は製品を傷めますので絶対に使用しないでください。

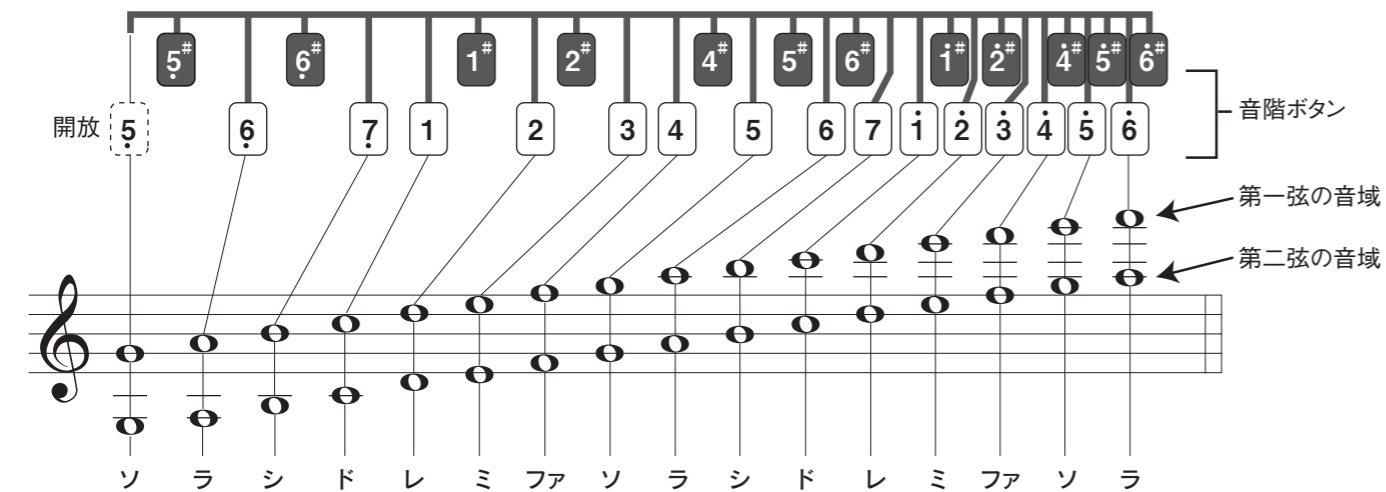
弓弾き大正琴「悠弓」仕様

機種名	音域	弦	付属品	寸法	重さ
悠弓（ゆうきゅう）	27鍵 5〜6# 第一弦の音域（第二弦は1オクターブ低くなります。）	第一弦 細線 第二弦 細巻線	弓（サイズ4/4） 松やに 調子笛 予備弦（細線、細巻線） クロス 接続コード ハードケース	（幅×奥行×高さ） 74.5×15×11cm	本体 2.1kg

各部の名称

音階ボタンと音域

悠弓の各弦の名称及び音階ボタンの数字に該当する音は以下のようになっています。

■ 各弦の名称

■ 音階ボタン

演奏の前に

1:弓を張りましょう

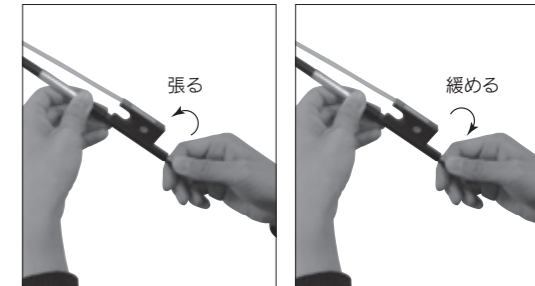
＜張り方＞

① 根元のネジを右側に回して弓を張ります。
② 弓のしなり具合によっても張り方が変わりますが、目安としては弓の中央あたりの棹と毛の距離が、棹の太さと同じ位(1cm弱)にします。

注意 張り方が弱いと音が出にくく、張りすぎると弦の上で弓が跳ねやすくなります。

＜緩め方＞

① 根元のネジを左側に回して弓を緩めます。
② 棹の中央と毛が軽くつく位まで緩めます。

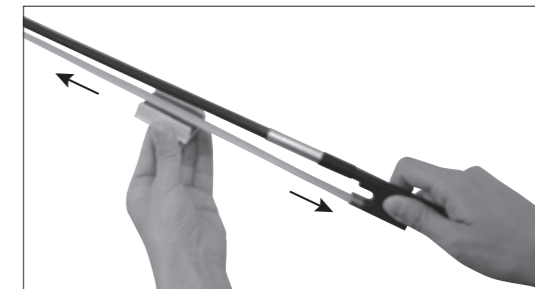
注意 使用後は必ず緩めておきましょう。張ったままだと弓の弾力がなくなります。

2:松やにを付けましょう

右図のように、左手に松やにを持ち、均一に毛に擦り付けます。

ポイント 新しい弓の場合は(新しい松やにの場合も)、松やにが付きにくいので、全体に摩擦を感じるまで擦り付けてください。

ポイント 既に松やにが馴染んでいる弓でしたら、全体を1～2往復する程度でいいでしょう。

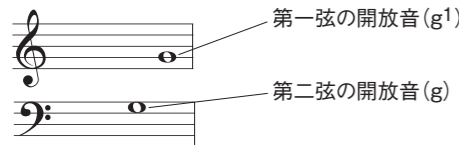
注意 松やにの付きが少ないと、弦の上を弓がすべってしまい、音がよく出ません。逆に、付け過ぎると、雑音が出てしまいます。楽器や弦に白い粉が付くのは、松やにの付け過ぎです。

使用後は、楽器に付いた松やにを乾いたやわらかい布で拭いておきましょう。

3:調弦に関してのお願い

弦は張っておくと、わずかに伸びて音程が低くなりがちです。
当社では調弦を完了済みで出荷していますが、演奏前には、音程を確認し、再調弦してください。

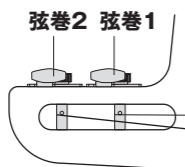
弦は消耗品です。錆びたり、伸び切ったり、切れかかっていますと、音程が狂い、音色・音質も悪くなります。
その時は早めに専用弦に取り替えてください。(※弦の交換の仕方についてはP15をご参照ください)

4:調弦の仕方

演奏の前に調弦をします。付属の調子笛を使います。調子笛は (ソ、g1)の音になっています。
調弦は、各弦とも全て開放(ボタンを押さえない)状態で行います。
弦巻きは時計回りに回すと音程が上がり、反時計回りに回すと下がります。
※スズキ大正琴チューナーST300s(以下チューナー)等を用いると調弦がより容易にできます。

① **第一弦は (ソ、g1)の音に合わせます。**

調子笛を鳴らしながら、もしくはチューナーを見ながら、弓で第一弦を弾き、第一弦が「g1」の音になるよう、弦巻1を回して、音を調節します。

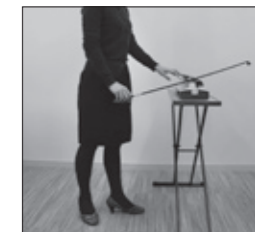
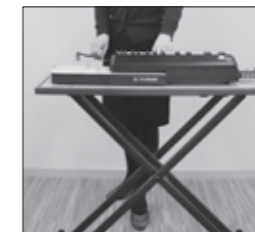
② **第二弦は第一弦よりも1オクターブ(8度)低い音に合わせます。**

第二弦を弓で弾き、第一弦より1オクターブ低い音(ソ・g)になるよう、弦巻2で調節します。

演奏しましょう

1:悠弓の置き方

楽器は体の正面に音階ボタンの高音部がくる位置に、ほぼ真横に置きましょう。

2:姿勢

楽器の前に立ち、右手を動かしやすくする為に右足を約半歩後ろへ下げます。

3:弓の持ち方

① **まず右手を歩く時のように楽に下げてみます。そのまま自然に、前後にゆっくり振ってみましょう。
そして、弓を持った時に同じ動きができるようにしましょう。**

② **このままの手の形で弓を持ちます。弓は主に、親指・中指で支えています。**

弓の持ち方は、手指の長さや形によって変わります。
各々に合った持ち方を工夫してみましょう。

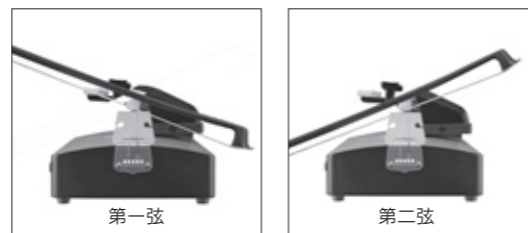
演奏しましょう

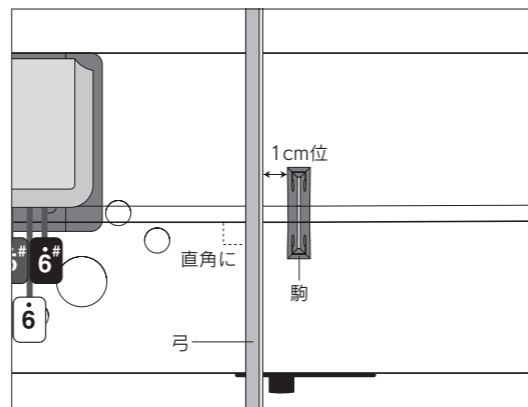
4：ボウイング（運弓法）について

＜弓の角度＞

悠弓には2本の弦が張ってあります。
2本同時に弾く事もできますが、基本的には、演奏する音域によって
第一弦、第二弦を弾き分けます。
どちらの弦を弾くかによって、弓を当てる角度が変わります。

第一弦

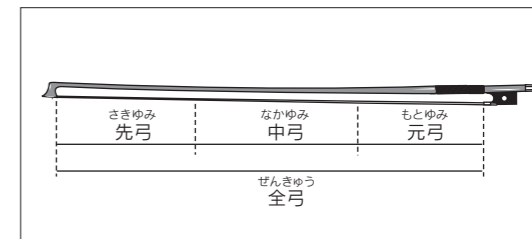
第二弦

＜弓を当てる位置＞

弓は弦に対して直角になるように当てます。
当てる位置は、基本的には駒から1cmくらい左側が良いでしょう。

＜弓の動かし方＞

肩・ひじ・手首の力を抜き、毛が弦に全て当たるようにまっすぐにして、
弦に直角に当てて弓を動かします。

『全弓（ぜんきゅう）』で弾いた時に、自然に弾ける距離や高さに楽器を置きましょう。

弓が動いている間は音が出て、弓の動きが止まれば音は止まります。

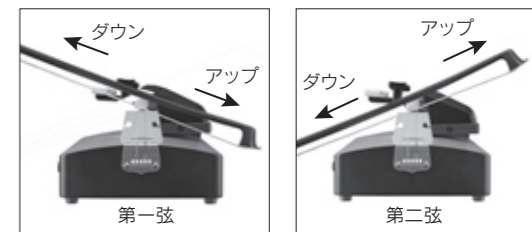
弓を動かす方向は曲によって変わります。

＜弓のアップ/ダウン＞

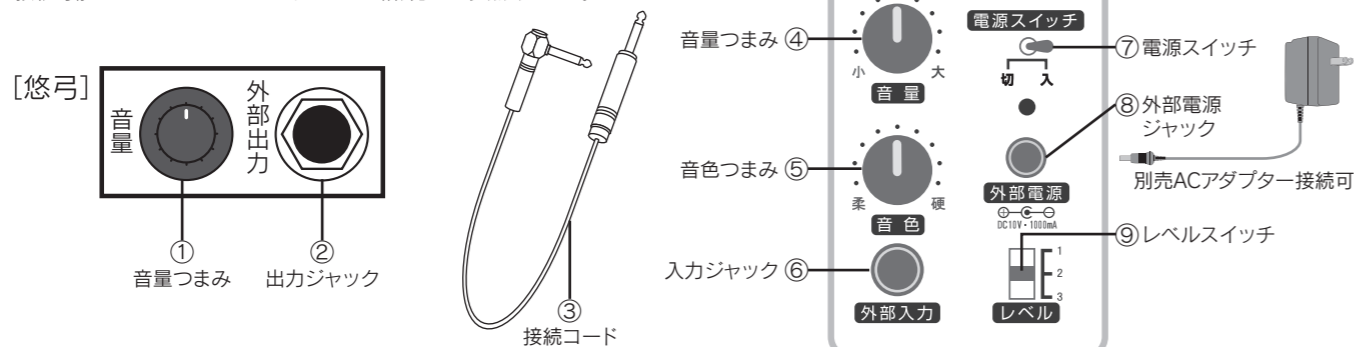
V アップ（上げ弓）
先弓から元弓に向かって弾く記号です。

ダウン（下げ弓）
元弓から先弓に向かって弾く記号です。

何人かで弾く時は、弓が動く方向（アップ／ダウン）を揃えるといいでしょう。

第一弦

第二弦

5:アンプへの接続と取り扱い

接続可能アンプについてはP16「アンプの紹介」をご参照ください。

【操作手順】

1.悠弓の出力ジャック②と使用するアンプの入力ジャック⑥を悠弓付属の接続コード③で接続します。
2.アンプの外部電源ジャック⑧に別売ACアダプターを接続し、ACアダプターを100Vコンセントに差し込みます。※2
3.アンプの電源スイッチ⑦を入れます。
4.レベルスイッチ⑨を「2」に設定します。
5.悠弓の音量つまみ①を最大にし、試奏をしながら音が歪まない位置へアンプ側の音量つまみ④を調節してください。
次に悠弓の音量つまみを少し戻して音量を調節してください。(演奏中での音量調節は、悠弓の音量つまみを使用してください。)
6.好みによりアンプの音色つまみ⑤で音色を調節してください。

※1　アンプは別売となります。
※2　アンプを乾電池で使用する場合には必要ありません。この時、乾電池の寿命が近いと音が歪みます。そのような場合には新しい乾電池と交換してご使用ください。また、アンプをACアダプターで使用する場合、電源プラグの差し込み方向により、「ブーン」というノイズが入ることがあります。そのような場合は、電源プラグの差し込み方向を逆にしてみてください。

6:譜の読み方

悠弓の楽譜は五線譜と「ド・レ・ミ・ファ・ソ・ラ・シ・ド」を「**1·2·3·4·5·6·7·$\dot{1}$**」と表した「数字譜」とを併記しています。
数字譜の音符と休符は下表のようになっています。下表では**1(ド)**の音で記入してあります。

音符(音の長さ)は**1〜7**の数字1つを1拍とし、－、＝、**$\bar{0}$**などの記号との組み合わせで表します。
休符は**0**を1拍として、**$\underline{0}$**、**$\underline{\underline{0}}$**、**$\underline{0}$-**、**0-**などの記号で表します。

四分音符を1拍と数えた場合の表

拍数	音符	数字譜の音符	休符	数字譜の音符
4拍	全音符	1 $\bar{0}$ $\bar{0}$ $\bar{0}$	全休符	0 0 0 0
2拍	二分音符	1 $\bar{0}$	二分休符	0 0
1拍	四分音符	1	四分休符	0
$\frac{1}{2}$拍	八分音符	$\underline{1}$	八分休符	$\underline{0}$
$\frac{1}{4}$拍	十六分音符	$\underline{\underline{1}}$	十六分休符	$\underline{\underline{0}}$
3拍	付点二分音符	1 $\bar{0}$ $\bar{0}$	付点二分休符	0 0 0
1拍半	付点四分音符	1-	付点四分休符	0-
$\frac{3}{4}$拍	付点八分音符	$\underline{1}$-	付点八分休符	$\underline{0}$-

補足) 数字譜には♭の表記がなく、派生音は全て♯で表します。

7：譜例

さくらさくら

使用弦：第二弦

日本古謡

演奏の後は

1:お手入れについて

＜楽器本体＞

本体に付着した松やには、そのままにしておくとベタつくことがありますので、使用後は、乾いたやわらかい布で拭き取ってからケースに収納しましょう。

＜弓＞

使用後は必ず緩めておきましょう。張ったままだと弓の弾力がなくなります。
また切れた毛がある場合は根元の方で短くカットしておきましょう。

2:交換部品について

弓、弦、松やには消耗品です。消耗したら新しいものに交換してください。（※ご購入はスズキ各営業所へお問い合わせください。）

＜弓＞

毛が摩耗し、切れてきます。たくさん切れてくるようなら新しい弓への買い替えをお勧めします。

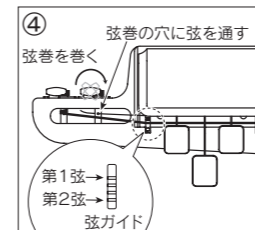
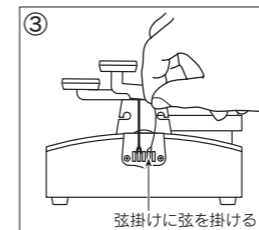
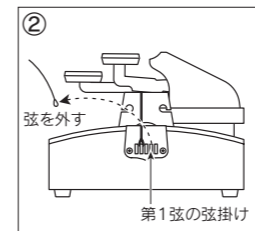
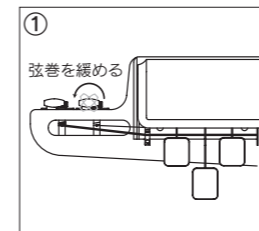
＜弦＞

錆びたり、伸び切ったり、切れかかっていると音程が狂い、音色・音質も悪くなります。また演奏中に弦が切れる恐れがあり危険です。定期的に弦をチェックし、傷んでいたら早めに新しい弦にお取り替えください。（※弦の交換の仕方は次ページをご参照ください）

＜松やに＞

松やには、落としたり衝撃を与えると割れます。松やにが粉々になったり、消耗して小さくなったら新しい松やにへの買い替えをお勧めします。

3:弦の交換の仕方

弦の交換は1本ずつ行ってください。2本の弦を同時に外すと、駒も外れるようになっています。

① 交換したい弦の弦巻を、反時計回りに回して弦を緩めます。

② 弦巻・弦掛けから外します。

③ 新しい弦を弦掛けに掛け、弦を駒に乗せます。

④ 弦ガイドの溝に弦を乗せ、弦を弦巻器の穴に通したら、弦巻を時計回りに回して弦を張ります。

⑤ 弦の交換が終わったら調弦しましょう。
（※調弦の仕方はP6をご参照ください）

注意

駒についての注意

弦を 2 本同時に外すと、駒も外れるようになっています。
また弦が張ってある状態でも、何らかの理由で駒が外れてしまう場合があります。
その際には、本体の駒位置を記したマークに駒の中心を合わせて置いてください。弦を張ってある状態の場合は、弦を少し（弦巻 1 回転程度）緩めて、駒を入れたあとに再調弦してください。

アンプの紹介

「悠弓」は電気式ですので外部アンプに接続することができます。以下が「悠弓」に対応するアンプとなっております。

	SA-35/35T	SA-65T	SPA-40	SPA-40R	SPA-150R-L SPA-150R	レスリー2121
コントロール	音量·音質	音量·音質	音量·音質	音量·音質·リバーブ	音量·音質·リバーブ	音量·音質
ジャック	入力	入力	入力1·2 ライン出力	入力1～4 ライン出力	入力1～4 ライン出力	入力1～3 (マイク1·ライン2) ライン出力
電源	DC9V (AC100Vアダプタ別売)	DC9V (AC100Vアダプタ別売)	AC100V	AC100V	AC100-240V	AC100V
出力	3.5W※1	6.5W※1	40W	40W	150W	低音部150W 中高音部50W
消費電力	6.8W	10.9W	30W	33W	45W	190W
寸法 (幅×奥行×高さ)	8.5×12.5×21cm	8.5×12.5×21cm	24×22×32cm	24×22×32cm	32×31×62cm	51×50×76cm
重量	0.8kg/0.85kg (SA-35) (SA-35T)	0.88kg (SA-65T)	6.8kg	7kg	15kg	39kg

※1 専用ACアダプターAD1-1010(別売)使用時の出力です。乾電池使用時は電池の消耗などで出力は低下します。

キリトリ